

## 布オムツ、紙オシメ、紙パンツを体験して

－ 患者さんの苦痛を実感して －

○竹内 雅代、若松 厚志、吉田 智子、加藤 博美、高島 宗一、柳田 勝

大阪府 医療法人聖志会 渡辺第二病院

I. 【はじめに】認知症の患者さんにとって、トイレでの排泄行動の障害は避けられないことであり、患者さんの不潔行為の対策として、しばしばオムツ、オムツカバーが用いられてきた。

認知症の患者さんに、オムツ、オムツカバー着用時の感想を直接聞くことができないため、必要な改善の機会も失われてきた。介護教育を主とする学校のなかには、学生にオムツ体験させるところもあると聞いている。

今回我々は、オムツ、オムツカバーを着用し歩行、車椅子使用し、さらに実際に排泄を行った体験を通して、問題点を検討したので、若干の考察を加えて報告する。

II. 【対象】当院に勤務する看護師2名、介護士2名

III. 【方法】以下の状態で、心理的感情と、身体感覚の2点から、印象を調べ、問題点を分析した。

- 1) オムツ着用
  - i) 紙パンツ ii) 紙オムツ iii) 布オムツ
- 2) オムツカバー装着
  - i) テープで固定 ii) 結んで固定
- 3) オムツでの移動
  - i) 歩行 ii) 車椅子
- 4) 排泄（尿、便）
  - i) 紙オムツ ii) 布オムツ

IV. 【倫理的配慮】今回の研究にあたり、当院倫理委員会の承認を得て行った。

V. 【結果】

1) 紙パンツ・オムツ着用時は、肌触りは良かったが恥ずかしく他人に着脱をしてもらうには抵抗感を持った。さらに布オムツは圧迫によりきつい感じがした。

2) マジックテープ使用時、圧迫感は少ないが、ずれ落ちそうな感じがした。結んで固定した場合は、皮膚に

はりついて不快で、圧迫による軽い痛みを感じた。マジックテープが皮膚に当たると、痒みや痛みがあった。

3) オムツ着用の歩行では、股間部でオムツと皮膚が擦れて歩きにくく転倒しそうであった。車椅子使用では、圧迫による痛み、痒みが強かった。特に安全ベルトや前屈姿勢ではオムツによる圧迫が増強し、最も不快であった。

4) 排尿の場合、ベタベタして皮膚に付着する感じがした。15分経過すると、冷感や掻痒感が生じ、オムツが重く感じられた。排便の場合、臭いが強くベタベタし、陰部に便が入ってくる感じがして不快であった。5分後には、掻痒感が出現した。歩行するとオムツがさらに重く感じられた。オムツ交換後も付着しているのではと不快感があった。

VI. 【考察】

今回、オムツ、オムツカバーを使用して歩行、排泄を実際に体験してみることにより、患者さんにとってオムツ、オムツカバーは非常に苦痛であることがわかった。布オムツは装着するだけでも、圧迫感があった。オムツカバーの固定はマジックテープではゆるく、結ぶと圧迫による痛みがあり固定法を検討する余地があると思われた。オムツ使用時の歩行の危うさと車椅子での不快感の増強については今後の課題とした。排尿・排便時のベタベタ感、冷感、掻痒感、にৌい等の不快感は強く、実際オムツ自体の重さも苦痛であったため頻回の交換の必要性を強く感じた。

当院では不潔行為の対策のため、オムツ、オムツカバーを使用しているが今回の実体験を通して、今後の排泄管理のあり方を考えたい。

